

空き家を解体する

子どもの代まで残さない
という選択



before

瓦が今にも落ちそうな状態。通学路に面しているため色の付いたロープで近付かないよう注意を促していた



after

資産として使う

個人で賃貸経営へ

三角町の空き家を購入して改修、賃貸経営を行う宇土市の本田さん。

「物件のポイントは元々、別々だった和室と洋室の2部屋を1部屋にし、空間を広くしたところ。改修時は、実際に自分が住んでみたい、借り手にも入って良かったと思ってもらえるよう快適さを重視した家造りを意識しました。」と言います。

個人で賃貸を経営しようと考えたのは資産形成のため。三角町の空き家に決めたのは、海が近く、仕事を退職した釣り好きの人がスローライフを送れそうな場所だから、とのこと。

今は個人で戸建てやアパート賃貸の経営をする人も少なくありません。ただ、実際に始める

解体補助の実績

	交付決定	うち適正管理通知対象
令和3年度	6件	3件
令和4年度	8件	2件
令和5年度 ※9月時点	3件	3件



本田 喜久子 さん(66)

と、思った以上に予算がかかってしまうことがほとんど。

本田さんにリフォーム工事の費用を抑える3つのコツを教えてくださいました。

- 数社から見積書をとって比較
- 予算内に収まるよう、価格を交渉
- DIYやリサイクルショップをつまぐ活用するなど、できることは自分でする

また、業者とコミュニケーションをとっておくと良いアドバイスももらえて費用を抑えられることもあると言います。「時には大工さんと一緒に作業することもありました。」と本田さん。トイレはウォッシュレットに、洗面所やキッチンも一新しました。住む人の快適さを考えたこだわりの造りで入居者もすぐに決まったそうです。

一人で悩まず相談を

9月に空き家を解体したTさん。解体のきっかけは、市が小川町で開催した空き家相談会でした。親族が亡くなり空き家となった家をどうしようかと悩んでいたときに、市に勧められ参加することに。相談員である司法書士から今の空き家の権利が自分に相続されていること、これからどう対処すればいいのかを教わったと言います。

「当時の私は、建物が崩れて人にけがをさせてしまうのではないかと、近所に迷惑が掛かるのではないかと不安でした。解体

が終わると心の荷物が一つ減って安心しました。子どもに自分の親の代の負の遺産を相続させないように、自分たちの代で決着をつける。それを一番に考えて行動しました。」と振り返ります。

金銭的にも不安だったTさん。市の補助金を使って解体を行いました。「専門家と直接話せる機会はないので、あの時、相談会に参加して本当に良かった。空き家を今後どうすればいいか悩んでいる人は、市に相談することをお勧めします。何か現状が変わるかもしれません。」

老朽危険空き家 除却補助金

上限
50万円

危険家屋の解体に使える補助金。事前調査(不良度判定)の申し込みが必要。

- 対象** 事前調査の結果で必要性が認められた空き家
- 対象経費** 解体・除却費用、廃材などの処分費用など
- 補助率** 5分の2(上限額50万円)



自分が住んでみたくなるような物件に

1 2部屋を1部屋にしたことで広々としたリビングに 2 浴室はタイルを張り替え、シャワーヘッドも付け替えてきれいに 3 一新したキッチンにはIHにして使いやすく

